

会議録

令和3年度 第1回総合教育会議

- 1 日 時 令和3年7月21日（水曜日）
午後2時30分～午後4時05分
- 2 場 所 中央図書館2階 視聴覚ホール
- 3 出席者 市長 星野 光弘
教育長 山口 武士
委員 小野寺 巧
委員 渡部 利枝子
委員 深井 美千代
委員 横田 豊三郎
- 4 署名委員 教育長 山口 武士
委員 深井 美千代
- 5 説明職員 教育部長 林 みどり
学校統括監 小林 正剛
教育政策課長 中島 雄一
学校教育課長 石井 勝博
- 6 事務局職員 政策財務部長 水口 知詩
政策企画課長 齊藤 博之
政策企画課副課長 甲佐 隆志
政策企画課主査 馬場 規雄
- 7 傍聴者 0人
- 8 議 事 (1) G I G Aスクール構想の取組について
(2) 新型コロナウイルス感染症対策について
(3) その他

【星野市長】

本日は、お集まりいただきありがとうございます。

機構改革により、今年度から政策企画課が総合教育会議の担当になりました。この場での議論から施策に発展していくものがあることから、より適切な形になったと思います。

東京オリンピックが、明後日、23日より始まります。本市においては、セルビア共和国のレスリングのオリンピック選手団が来日し、事前キャンプが始まりました。本来であれば、本市の名所などをご案内したいのですが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、選手は私どもの手配したバスで体育館とホテルの間を直接行き来する形となります。市民の皆さまの関心も高いので、しっかりとコロナ対策を実施してまいります。

本日11時に、選手団の歓迎会を行いました。ヘッドコーチから、かつてない良い環境だとおほめの言葉をいただきました。来週、25日にステージ披露、28日に壮行会が市民総合体育館で開催されます。選手たちは、世界選手権大会やヨーロッパ競技大会で優秀な成績を収めています。市民の皆さまとの交流は限られたものになってしまいますが、2階の観客席から見るすることができます。

新型コロナウイルス感染症の感染者数はリバウンドの状況にあり、本市では、6月の24人に対して、7月はすでに50人を超えています。

ワクチン接種については、医師会のご協力もあって、5月10日から週8,000件の接種ができる体制にあります。今週月曜日からは、ふじみの救急病院でも接種ができるようになりましたので、さらに週1,000件以上増えました。

ただ今後は、ワクチンの供給量が少なくなる見込みです。7月分は問題ないのですが、8月の1週目、2週目はこれまでの想定より少なくなると思われます。これに伴って、健康増進センターでの集団接種は8月2日から休止し、ワクチンを個別接種の病院に回します。お盆明けには40歳代の接種が始まり、人数の多い世代となりますので、ワクチンの供給量を注視したいと思います。なお、65歳以上の方のうち、2回目の接種まで完了している方は約2万人、約80%です。11月末までに、12歳以上の希望する全市民が接種できる予定です。

本日の議題の「GIGAスクール構想について」ですが、教育委員会は昨年度1年間、環境整備などに苦勞したと思います。今年度から、1人1台のタブレットコンピュータを使用した授業がスタートしました。先日の、つるせ台小学校と勝瀬中学校の視察の報告や感想も踏まえて、議論したいと思います。

コンピュータの活用が進むことが、児童生徒の学力の定着につながるものと期待しています。また、先生方には、仕事が増える面もあると思いますが、授業力の向上と業務の効率化によって、子供と向き合う時間が増えることを期待しています。

本日はよろしく申し上げます。

【齊藤政策企画課長】

ありがとうございます。続きまして、本年4月から新たに教育委員会委員に就任した横田豊三郎委員からご挨拶をお願いします。

【横田委員】

4月1日より教育委員会委員を拝命しました。

これまで、定例教育委員会会議と5月の学校訪問に参加しました。少しずつ前が開けてきたという状況です。皆さまとともに勉強し、前へ進みたいと思います。よろしく申し上げます。

【齊藤政策企画課長】

(説明員の紹介)

それでは、以後の進行につきましては、星野市長をお願いいたします。

【星野市長】

それでは会議に移らせていただきます。

本日の会議録署名委員を指名します。会議録署名委員に、山口教育長と深井委員を指名しますので、よろしく申し上げます。

初めに、議事の(1)「G I G Aスクール構想の取組について」議論したいと思います。

本市では、G I G Aスクール構想に基づく「児童生徒1人1台パソコン」と「高速ネットワーク環境」の整備を本年3月に完了しました。

先日、つるせ台小学校と勝瀬中学校に伺い、先生方が積極的にコンピュータを活用されている授業を拝見しました。この2校は、本市のなかでも活用が進んでいる学校とお聞きしています。コンピュータを使い始めてから間もない時期ではありますが、現在の進捗状況や1学期に見えてきた課題、そして今後の展望などについて、担当である学校教育課長から説明をいただいた後、意見交換をしたと思います。

それでは、「G I G Aスクール構想の取組について」、学校教育課長より説明をお願いします。

【石井学校教育課長】

(資料1「G I G Aスクール構想の取組について」の説明)

資料の補足になりますが、そのほかの課題としては、無線LAN環境のない4%の家庭にどのように対応するかというものがあります。

なお、視察に行かれた、つるせ台小学校、勝瀬中学校のほか、水谷小学校をモデル校として指定しています。

続いて、学校からの報告などを簡単にご紹介します。

水谷小学校の生活科の授業では、導入した授業支援システムの機能を利用して、児童が作成した名刺のようなカードを先生のコンピュータに集めて全員で共有したそうです。

富士見台中学校の社会科（地理）の授業では、活用したドリル教材が生徒から好評だったそうです。

本郷中学校の家庭科の授業では、生徒一人ひとりが撮影した、自分の裁縫の玉結び、波縫い、玉留めの写真を先生に提出し、先生がそれを評価したそうです。これまでは、先生が生徒のもとに出向いて確認していたので時間がかかりましたが、この方法だと1時間のうちに全員分ができたとのことでした。

【市長】

ありがとうございます。

それではまず、勝瀬中学校の視察に行かれた委員からご意見等をいただきたいと思います。

【横田委員】

勝瀬中学校は、5月に訪問した際に、校長先生から説明を聞いていたので興味を持っていました。また、視察に行く前に、「GIGAスクール構想に係る富士見市教育ビジョン」を見ました。

先生方は大変だろうな、というのが率直な感想です。私も教育の現場に30年以上おりました。日々の学校運営があるなかで、新しいものを導入するのは改革のようなもので、一朝一夕でできるものではありません。内田樹氏は『街場の教育論』のなかで、走っている車を修理するようなものだと例えています。

私は高校の教員でしたが、「ゆとり教育」もこのような状況でした。授業時間数が削減されたために、現場は混乱し、結局は学力が低下してしまいました。総合的な学習の時間の導入時なども大変でした。

GIGAスクール構想については、コロナ禍で学校を休校としたことから進んだという側面もあるので、成果を上げる可能性もありますが、やはり現場は大変だろうなというのが率直な感想です。

【深井委員】

全体的に上手に授業をしていたと思います。理科や社会のような、資料が必要な科目に特に有効だと思いました。数学では、わからないために手が止まっている生徒に、先生が気づきにくい状況を見ました。これまでの授業にコンピュータが加わることで、先生も生徒も大変になっているなと思いました。

パワーポイントで作成したオリジナルの教材を活用しているような先生はコンピュータが得意なのだと思いますが、コンピュータが得意ではない先生もいると思います。まだスタートラインの位置ですから、先生と生徒が一緒になって慣れていき、そして学力がついてくれば良いと思います。

勝瀬中学校では、校長先生から消耗品などの課題についてお話がありました。必要なものなので、どのように改善していくかが大切です。全員が無線LAN環境に接続することを考えれば、一時的につながりにくいなどの事象は仕方ないと思います。

【星野市長】

勝瀬中学校では、英語、数学、国語、理科、社会の5教科の授業を見ることができました。先生方のコンピュータの活用などについて、興味深く拝見しました。ICT活用推進リーダーの先生を始めとする、先生方が努力されていることを感じました。

つるせ台小学校では、子どもたちにどのようにコンピュータに慣れてもらおうかというテーマがあるように感じましたが、コンピュータ内の地図を活用する授業や、テレビ会議機能などを活用している授業を見ていると、子どもたちは、私たちが思うよりも早く上達するだろうなとも感じました。

学校教育課長にお聞きしたいのは、1学期を終えて、GIGAスクール以前の1学期と比べて何が変わったか、中学校の場合は、中間試験、期末試験のこともお聞きしたいと思っています。操作にかかる時間が本来の学習のために必要な時間に支障をきたしていないか、また、学校が必要としている消耗品についてもお聞きしたいと思います。

勝瀬中学校の校長先生が気にかけていたローマ字入力のタイピングについても気になりますが、私の経験では、コンピュータを使用して作文等をしていけば、自然に上達するのではないかとともに思います。

【石井学校教育課長】

コンピュータの操作などに時間がかかるのは、導入当初はやむを得ないことなので、学校活動のなかで時間をやりくりし、本来の学習のために必要な時間が

減らないように工夫しています。

ローマ字は、小学校3年生の授業で学習します。小学校3年生以上について、現在の授業ではローマ字入力をしなければならないというような指導はしておりませんが、今後は長期的な視野をもって、指導内容を検討したいと考えています。

【山口教育長】

コンピュータを使用することばかりに焦点が当てられると、それ自体が目的となってしまうので、気を付けなければならないと以前から言ってきました。

より質の高い授業のためには、コンピュータに限らず、どのような教材をどのようなタイミングで使用するかが重要になります。コンピュータは、あくまで教材、ツールのひとつだと考えるべきだと思います。

今回のコンピュータ機器は、短期間で使用実績を求められていますので、実験的な側面があることは否めません。教員も児童生徒も、試行錯誤しながら使うなかで、洗練され、効果的な使い方になっていくので、初期の段階で個人差が出ることはある程度仕方がないと考えています。従来の板書と同様に、児童生徒の個人差を前提として授業づくりを行うべきだと考えています。

水谷東小学校の4年生の授業を見ましたが、ローマ字入力によるタイピングができている児童が思ったより多いという印象を持ちました。タイピングなどは、学校で教えるには限界があると思いますので、日常生活のなかで身に付けたのだと思います。ローマ字入力以外にも、かな入力や画面上のソフトウェアキーボードによる入力ができますので、児童の実態に合わせた、幅を持った指導でよいのではないかと考えています。

課題となっている消耗品については、今後の状況を見ながら判断したいと思っています。

【渡部委員】

昨年、GIGAスクール構想についての新聞の特集記事を読みました。アメリカの発達心理学の先生のコメントによると、言語や視覚とは異なり、人間は元来、読む能力を備えていないので、読書などを繰り返すことで上手に読めるようになるそうです。コンピュータの画面は情報量が多いため、どうしてもななめ読みになってしまうので、ゆっくり集中して読める紙のほうが望ましいということです。10歳ごろまでは紙を中心とし、その後にプログラミングなどを学習するのがよいのではないかと主張でした。本日の資料のなかに、活字とデジタル双方のよさを生かして一人ひとりの学力向上を目指す、という内容がありますが、その通りだと思います。

機器のトラブルに時間をとられるのはよくないので、授業が止まらないようにするための専門人材の育成などが必要だと思います。

【小野寺委員】

視察には行けなかったのですが、行かれた方の感想を聞き、スタートラインである現在は、先生にとっても生徒にとっても大変な時期にあるなと思いました。

コンピュータを使うことが目的になってはいけませんが、今は失敗を恐れず使ってほしいと思います。慣れれば、より良い使い方ができるようになると思いますので、今はとにかく、使う時間をできるだけ多くとって、早く慣れてほしいと思います。

【星野市長】

視察をした、つるせ台小学校と勝瀬中学校は、早くから取り組んでいる、先生方が利活用を力を入れている学校だと思います。市内の他の学校との差を客観的に教えてください。

【石井学校教育課長】

各学校での教職員向け導入研修の実施期間が、4月2日から5月18日までであったため、学校間で最大1か月半の開きとなってしまいましたが、教育委員会担当者が学校に細かいスケジュールを示し、進捗管理をしてきましたので、現時点で大きな差はないと思っています。

個々の教員のコンピュータに対する興味関心の度合いや、各学校のICT活用推進リーダーである教員の進め方の違いが、学校間の使用頻度の差となっていることは事実です。このことを含め、それぞれ課題を持つ学校に対し、教育委員会がどのような支援をしていくかがポイントになると思います。

【星野市長】

ICT活用推進リーダーの横の連携などについて教えてください。

【石井学校教育課長】

全18校を3グループに分け、グループ毎に教育委員会担当者も交えて、各学校の取組などの情報交換を行っています。さらに、各グループのリーダーになっているICT活用推進リーダー同士でも情報交換を行い、全校が情報を共有できるようにしています。また、教育委員会では「GIGA通信」を発行して、各校の取組などを紹介しています。

【星野市長】

先生が努力されているので、すぐに定着すると思います。

読書や学習の基礎の形成には、活字などアナログのものも不可欠であり、コンピュータだけではできない、コンピュータはあくまで道具であるというお話がありました。最適な教材を最適なタイミングで活用し、本来の目的である、学力の向上につなげていければと思います。

教員の負担軽減に資する支援については、今後検討したいと思います。
他にご意見等、ございますか。

【深井委員】

勝瀬中学校の校長先生が、タイピングのときに使用するローマ字について、現在小学校で指導している訓令式よりも、広く一般に使われているヘボン式のほうが向いているというご意見をお持ちでした。

【横田委員】

教材研究をオープンにしてはいかがでしょうか。各先生が作成した教材を、同じ学年や教科の先生で共有し、そのなかで良いものを、子どもたちとも共有していくようなことができれば良いのではないかと思います。

【石井学校教育課長】

コンピュータを活用した教材研究について、どのような進め方がよいのか、教育委員会としても研究したいと思います。

【横田委員】

教員同士で教材などを共有することも、各教員の、富士見市のGIGAスクール構想に対する共通理解にもつながっていくと思います。

ネットリテラシーについて、教えられていないのではないかと危惧しています。私が教員をしていたときに、携帯電話のメールの仲間外れや、なりすまし等の問題が始まりました。

私は保護者に対して、「個々の情報を正しく活用するためには、知識が必要であり、さらに、社会に活かしていくには知恵が必要なので、これらを豊富でしっかりとしたものにしておかなければならない。」と話しました。ネットリテラシーについては、このようなことに留意すべきではないでしょうか。

【石井学校教育課長】

コンピュータの活用の推進とともに、ネットリテラシーなどについても並行

して進めていきたいと考えています。

【星野市長】

ネットリテラシーについては、児童生徒が主体となって開催する、富士見市いじめのない学校づくり子ども会議のなかで、SNSなどについても議論していましたので、その延長線上にあるのではないのでしょうか。

不登校の児童生徒のコンピュータの活用方法等を教えてください。

【石井学校教育課長】

保護者と相談のうえで、コンピュータを持ち帰っている学校もすでにあります。また、不登校の児童生徒が通う適応指導教室「あすなろ」にもインターネットに接続する環境がありますので、コンピュータを活用した学習ができます。

【山口教育長】

学校教育課長の話に補足をしますと、文部科学省の一昨年の通知を受けて、児童生徒の自宅におけるICT等を活用した学習活動も出席扱いにできるように、ガイドラインを作成しています。このガイドラインに基づき、コンピュータを活用する場合は、保護者と学校の相互理解のもとで進めています。

【星野市長】

ありがとうございました。GIGAスクールの推進については、今後も市長部局として協力したいと考えています。

続いて、議題（2）「新型コロナウイルス感染症対策について」に移りたいと思います。事務局、学校教育課長より資料の説明をお願いします。

【齊藤政策企画課長】

（資料2「本市の新型コロナウイルス感染症の感染状況等について」の説明）

【石井学校教育課長】

（資料3「新型コロナウイルス感染症対策について」の説明）

【星野市長】

ありがとうございました。

本市が、まん延防止等重点措置の対象区域となりました。資料にはありませんでしたが、本市のワクチン接種率は県平均よりも4から5パーセント高い状況です。

コロナ禍で学校は2年目を迎えました。富士見台中学校は昨年度から延期となっていた3年生の修学旅行が中止になりました。中学校のなかでも、実施できた学校、これからの学校もあると聞いています。2年生の修学旅行は今のところ予定していると聞いています。

心の問題や不登校については、教育相談室が主担当なので、次回の総合教育会議において、教育相談室長のお話を聞きたいと思っています。

冒頭でお話をするのを忘れていたのですが、一昨日、これから芝生化を進める、つるせ台小学校の校庭に芝生を植えるセレモニーを児童会の子どもたちと行いました。学校、家庭、地域の皆さまとともに芝生を見守っていければと思っています。

本日は長時間にわたり、議論いただきありがとうございました。本日の会議を終了します。